

Accuphase

PRECISION DIGITAL PREAMPLIFIER

プレジジョン・デジタル・プリアンプ

DC-330

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
 います。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、
 個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、
 その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このよ
 うな品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様カードに必要な
 事項を記入の上、お早めになるべく10日以内に ご返送くださ
 い。お客様カードと引きかえに 品質保証書 をお届けいたします。
 製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質
 保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡くだ
 さい。

尚、品質保証書につきましては日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故
 の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れが
 あることを示しています。お客様への危害や、機器の損害
 を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を
 安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が
 死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を
 避けるための事項が示してあります。

注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が
 軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる
 恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示して
 あります。

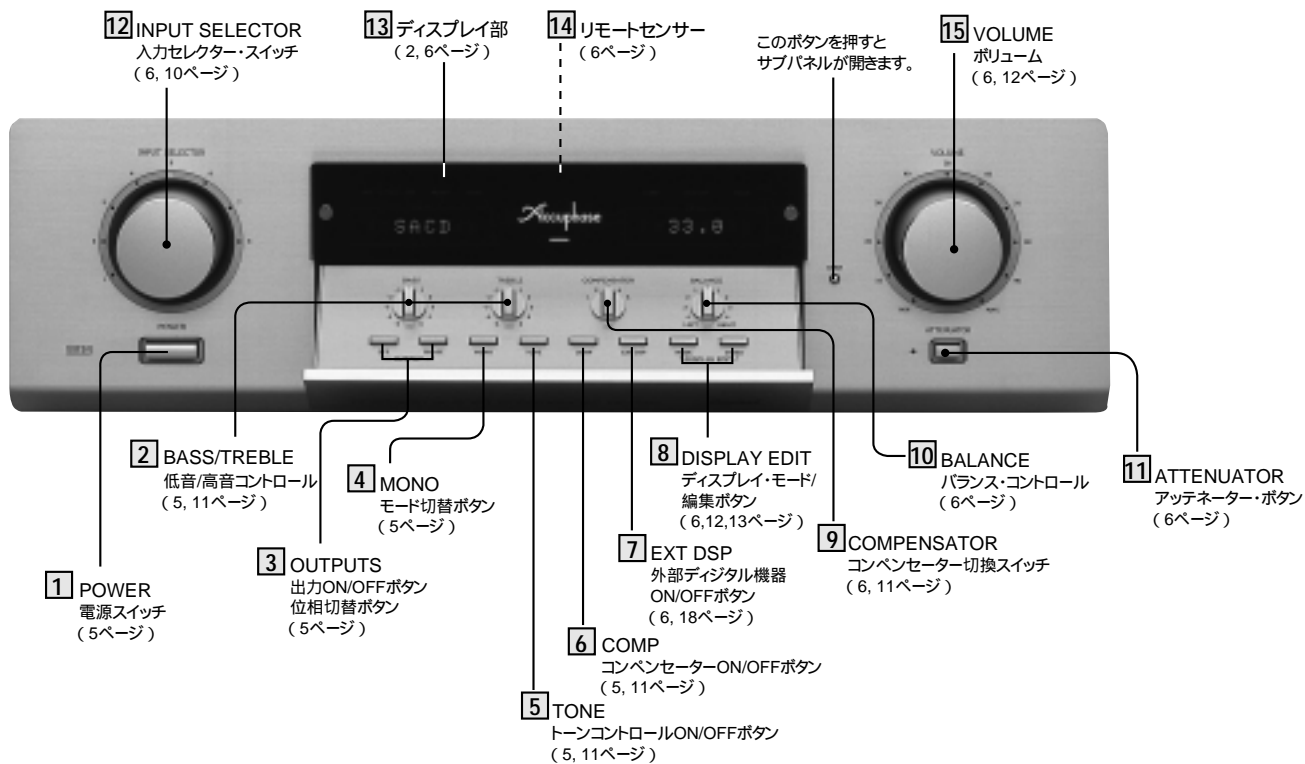
目 次

| | |
|---|---------|
| 1. 各部の名前 | |
| フロントパネル、リアパネル | 1 |
| ディスプレイ部 / リモート・コマンダー / 付属品を確認します | 2 |
| 2.  警告 安全上必ずお守りください /  注意 | 3 |
| 3. 接続図 | 4 |
| 4. 各部の動作説明 | 5 ~ 8 |
| 5. リモート・コントロール | 9 |
| 使用法 / 電池について | 9 |
| 6. ご使用方法 | 10 |
| 入力表示を初期設定に戻すには | 10 |
| 入力ソースの選択 | 10 |
| トーンコントロールの使用 | 11 |
| コンベンセーター(聴感補正)の使用 | 11 |
| VOLUME操作とモード変更 | 12 |
| 入力ポジションの表示変更 | 13 |
| CD、MD、DATなどをデジタル入力で再生 | 14 |
| CD、FM/CS-PCMチューナーなどアナログ入力で再生 | 15 |
| アナログ・ディスクの再生 | 15 |
| レコーダーでの録音・再生 | 16, 17 |
| EXT DSPの使用: DG-28の接続例 | 18 |
| OUTPUTSの使用: チャンネル・ディバイダーDF-35の接続例 | 19 |
| 7. オプション・ボード | 20 |
| デジタル関係 | 20 ~ 22 |
| アナログ関係 | 23 ~ 25 |
| オプションの取り付け方法 | 26 |
| 8. 保証特性 | 27 |
| 9. 特性グラフ | 28 |
| 10. ブロック・ダイアグラム | 29 |
| 11. 故障かな?と思われるときは | 30 |
| 12. アフターサービスについて | 31 |

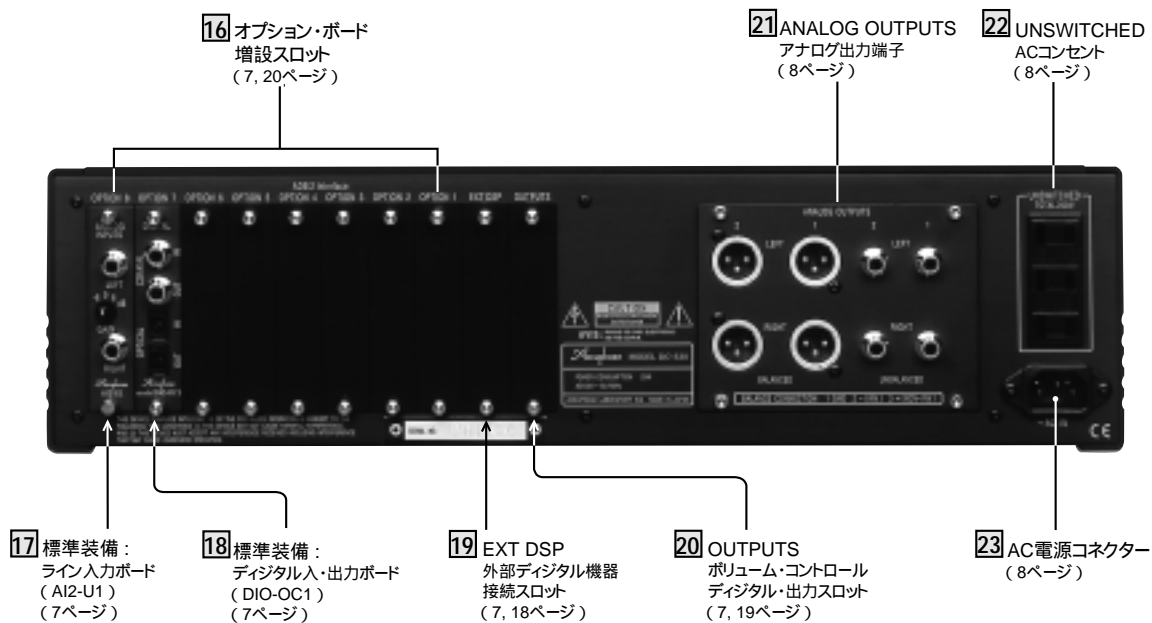
1. 各部の名前

詳しい説明は「各部の動作説明」(5~8ページ)を参照してください。

フロントパネル(前面)

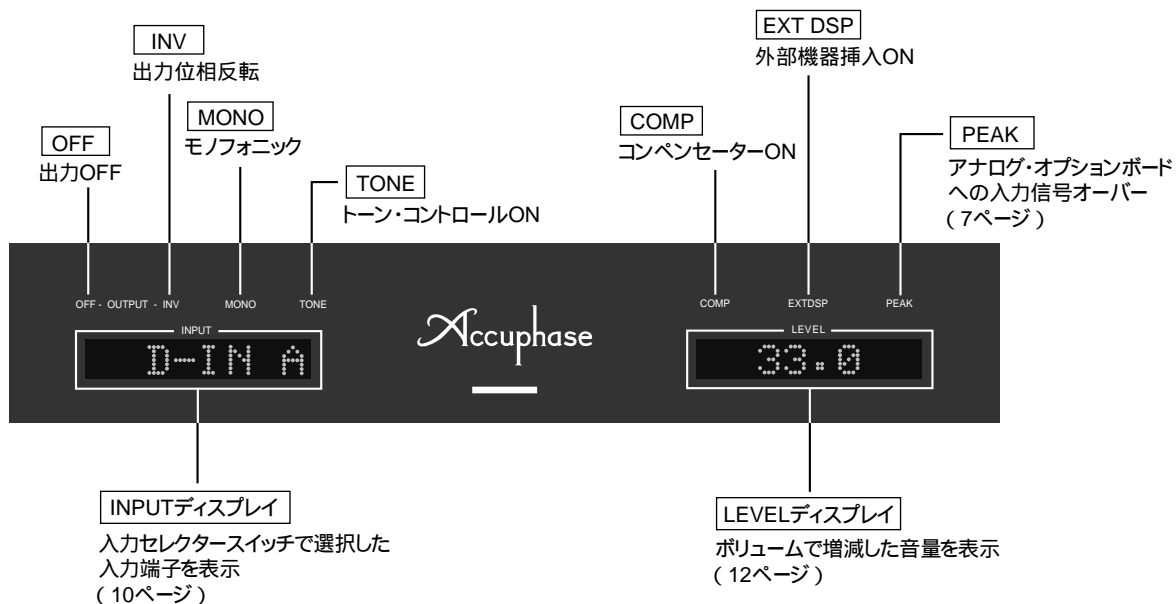


リアパネル(後面)



13 ディスプレイ部

イラストは説明用ですので、実際の表示とは異なります。
各動作状態を文字の点灯により表示します。

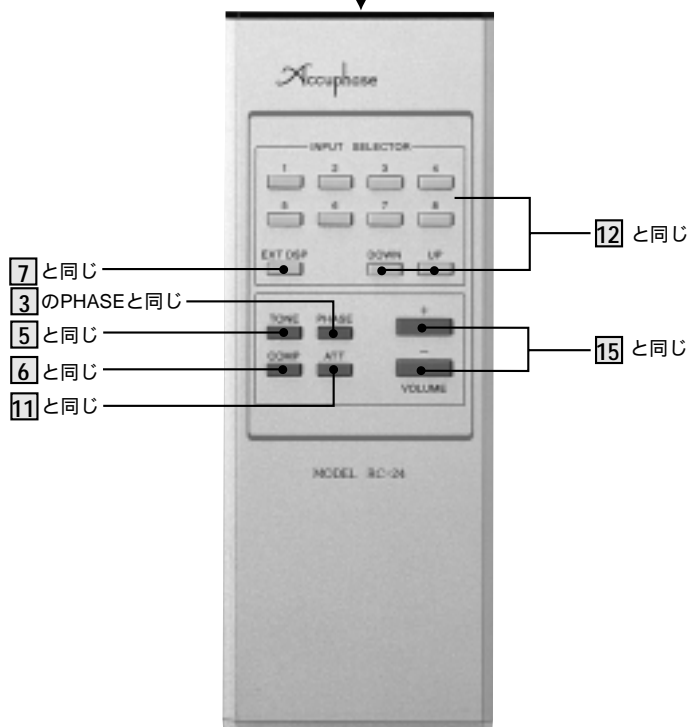


リモート・コマンダー RC-24(付属)

(使用方法は9ページ参照)

発光部

(本体 14 のリモートセンサーに向ける)



付属品を確認します

| | |
|-----------------------|----|
| 取扱説明書 | 1冊 |
| 安全上のご注意 | 1冊 |
| お客様カード | 1枚 |
| AC電源コード(2m) | 1本 |
| 75 同軸ケーブル DL-15(1.5m) | 1本 |
| プラグ付オーディオ・ケーブル(1m) | 1組 |
| リモート・コマンダー RC-24 | 1個 |
| 単4形乾電池 | 2個 |

本体に標準装備

OPTION 8:ライン入力ボード(AI2-U1)

OPTION 7:デジタル入・出力ボード(DIO-OC1)

お手入れ

本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

入出力端子などに接点保護剤などを使用しますと、樹脂部が経年変化で破損する場合がありますので使用しないでください。

2. ⚠️ 警告 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100Vをご使用ください。
AC100V以外(海外)では使用できません。
電源周波数は50/60Hzいずれの地域でも使用できます。

電源コードは取り扱いを誤ると危険です。
付属の電源コード以外は絶対に使用しないでください。火災、感電などの原因となります。
付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

長期間ご使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

トップ・プレートや底板は絶対にはずさないでください。内部に手などで触れますと感電事故や故障の原因となり、大変危険です。

脚の交換は危険ですから行わないでください。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因となります。

次の場合には、電源コードをコンセントから抜き、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。
故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。

⚠️ 注意

設置場所について
必ず水平な場所に設置してください。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
直射日光の当たる所、極端に寒い所
暖房器具の近くなど温度の高い所
振動や傾斜のある不安定な場所

パワーアンプや他の機器と直接重ねて使用しないでください
入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから、確実に行ってください

特に、RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(-)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしないでください。

オプション・ボードを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってください

ADB/ADB 2は、アキュフェーズ製品の
オプション・ボード用インターフェース規格です

ADB: Accuphase Digital Bus
従来の48kHzまでのサンプリング周波数に対応したインターフェース規格

ADB 2: Accuphase Digital Bus 2
従来のサンプリング周波数に加えて、SACD/DVD-Audioなど48kHzを超えるハイサンプリング信号に対応したインターフェース規格

オプション・ボードの選択

DC-330の入力・録音出力は、全てオプション・ボードで対応します。このため、本機はSACD、DVD-Audioなどの次世代フォーマットに対応している、ADB 2インターフェース規格のポートを備えた、オプション・スロットを装備しています。

次のボードは標準装備されています。

ライン入力ボード: AI2-U1

デジタル入・出力ボード: DIO-OC1

従来のDC-300、DG-28等に使用している、オプション・ボードはそのまま使用することができます。(ボードの種類は20ページ参照)

SACD、DVD-Audioや96kHzソフトなど、ハイサンプリング・ソースの再生/録音については、この『取扱説明書』をお読みの上、用途に応じて適切なオプション・ボードを選択してください。

SACDのデジタル再生14ページ

SACD、DVD-Audioや96kHzソフトのアナログ再生15ページ

サンプリング周波数96kHzソフトの再生20ページ

ハイサンプリング・ソースをレコーダーで録音16, 17ページ

DG-28, DF-35を接続して、ハイサンプリング・ソースを再生...18, 19ページ

アナログ再生の場合、ライン入力ボードは次の2種類があります。(15ページ)

ADB対応ボード(従来の48kHz対応タイプ): AI-U1, AI-B1

ADB2対応ボード(96kHz対応タイプ): AI2-U1, AI2-B1

(内部スイッチにより48/96kHzの切替可能)

アナログ・レコードを再生する場合は、アナログ・ディスク入力ボードAI-AD1を増設してください。(15ページ)

3. 接続図 — イラストはオプションを増設した場合の接続例です —

⚠ 注意 接続するときは、必ず各機器の電源を切ってください。
 デジタル機器との接続は、75 同軸ケーブル、トスリンク光ファイバー、HPC光ファイバーなどを使用します。
 アナログ入・出力の接続は、プラグ付オーディオケーブルを使用し、LEFT(左) RIGHT(右)を正しくつないでください。
 アナログ出力のバランス用とアンバランス用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

オプションの増設例(左より)

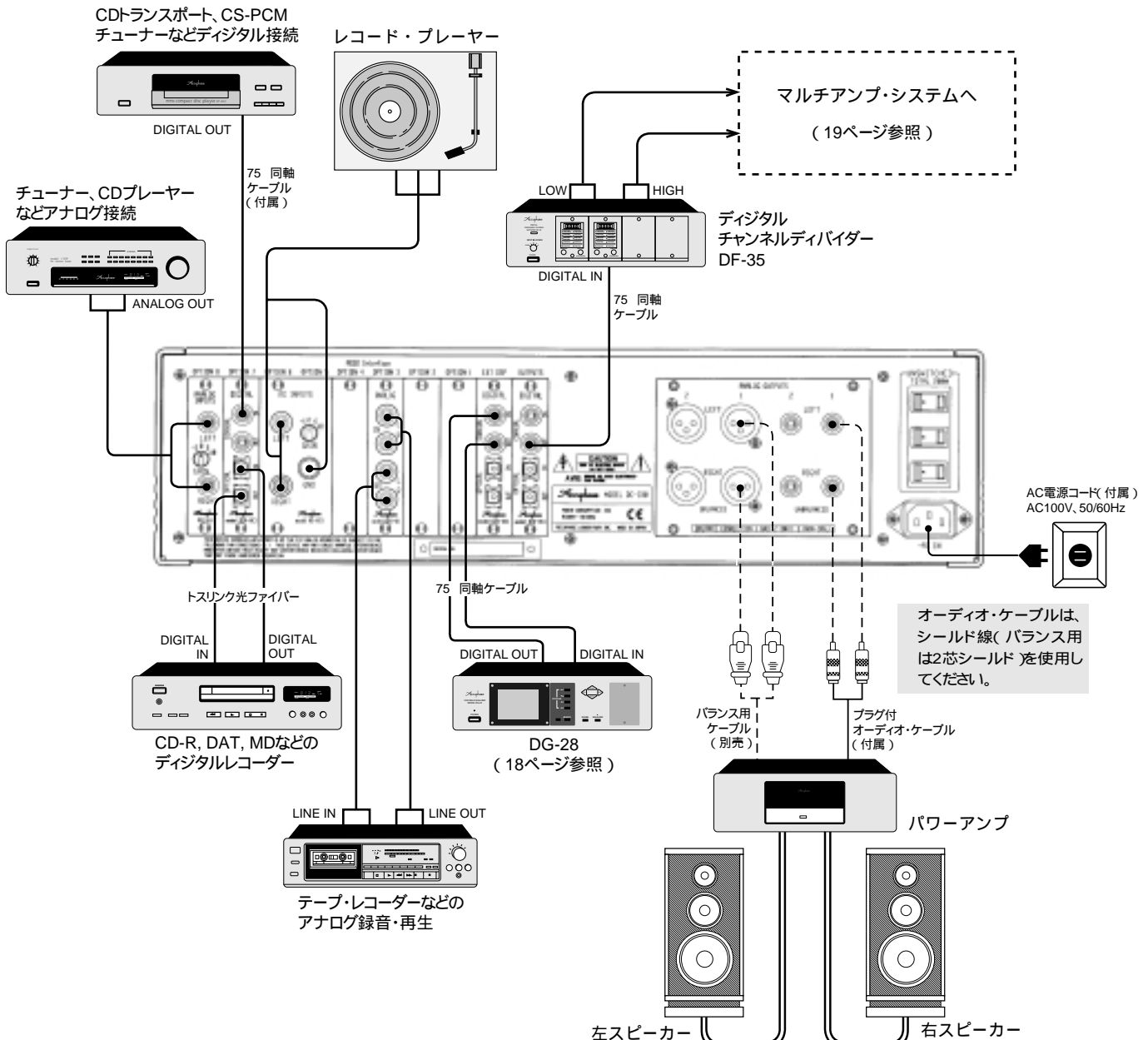
- OPTION 8 : ライン入力ボード(AI2-U1) ————— 標準装備
- OPTION 7 : デジタル入・出力ボード(DIO-OC1) ——— 標準装備
- OPTION 5, 6 : アナログ・ディスク入力ボード(AI-AD1)
- OPTION 3 : ライン入・出力ボード(AIO-U1) ————— 別売
- EXT DSP : デジタル入・出力ボード(DIO-OC1)
- OUTPUTS : デジタル入・出力ボード(DIO-OC1)

SACDやDVD-Audioプレーヤーのアナログ出力は、AI2-U1またはAI2-B1(内部スイッチで96kHzに設定)に接続します。

SACDトランスポート DP-100の演奏

HS-Link入力ボード:DI2-HS1を増設して、HS-Linkケーブルで接続します。
 DG-28やDF-35を接続する場合のオプション・ボードは、18,19ページを参照してください。

オプションの種類および詳細は20~26ページ参照



4. 各部の動作説明

1 POWER - 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。
電源を入れてから回路が安定するまで約4秒間は、ミュートイン
グ回路が作動しますので出力はありません。


電源スイッチをOFFにしても、入力文字変更やボリューム位
置など、それまでに設定/変更された機能は記憶されます。

2 BASS/TREBLE - 低音/高音コントロール


BASS: 低音コントロール用スイッチ
TREBLE: 高音コントロール用スイッチ
使用方法は、11ページ参照。

3 OUTPUTS - 出力ON/OFFボタン、位相切替ボタン

OFF: ANALOG OUTPUTS端子(4系統)とOUTPUTS
スロットの出力信号をON/OFFするボタンです。

 押して出力が "OFF" : OFF点灯
再び押すと出力が "ON" : OFF消灯

PHASE: 出力の位相を切り替えるボタンです。
通常出力信号は、入力信号と同相ですが、こ
のボタンを押すと出力の位相が反転(180°)
します。つまり出力信号は入力信号と逆相に
なります。


 押して "INVERTED" (逆相) : INV点灯
再び押すと同相 : INV消灯

INVERTED時のバランス出力コネクタの極性は、次
ぎのように変わります。


: グラウンド(変わりません)
: インバート(-) ノン・インバート(+)
: ノン・インバート(+) インバート(-)

4 MONO - モノ切替ボタン

ステレオとモノフォニックの切り替えスイッチです。モノフォニッ
クでは、左右チャンネルの信号がミックスされ、スピーカーの中
央で聴くと音像はセンターに定位します。

 押して "MONO" (モノフォニック) : MONO点灯
再び押すと通常のステレオ再生 : MONO消灯

5 TONE - トーンコントロールON/OFFボタン


 押して "ON" : TONE点灯
再び押すと "OFF" : TONE消灯

- * 使用方法は、11ページ参照。
- * "ON" でBASS(低音)/TREBLE(高音)コントロールがで
きます。
- * "OFF" にするとBASS/TREBLEツマミの位置に関係なく、
フラットな特性が得られます。

6 COMP - コンペンセータ(聴感補正)ON/OFFボタン

人間の聴感特性は、そのときの音量によって低音感や高音感
が不足してきます。この量感を補い、聴感上のエネルギー・バラ
ンスを調整します。

ONでコンペンセータ切替スイッチが有効になり5種類のカー
ブを選択することができます。

 押して "ON" : COMP点灯
再び押すと "OFF" : COMP消灯

詳しい説明は11ページを参照。

7 EXT DSP - 外部デジタル機器挿入ON/OFFボタン

リアパネルEXT DSPスロットの端子に接続されている機器の信号をON/OFFします。



押して“ ON ” :EXT DSP点灯
再び押すと“ OFF ” :EXT DSP消灯

注意

EXT DSP端子に機器が接続されていないとき、このボタンを押してONにすると、**20**OUTPUTSスロットの出力及び**21**アナログ出力は途切れます。

8 DISPLAY EDIT - ディスプレイ・モード/編集ボタン

ボリューム・レベル表示の変更(12ページ)、INPUT SELECTORおよびVOLUMEツマミ外周のLED点灯ON/OFF(12ページ)、入力文字編集(13ページ)に使用します。

9 COMPENSATOR - コンペンセーター切替スイッチ

5種類のコンペンセーター特性のカーブを選択します。
(*詳しくは、11ページ参照)

6コンペンセーターON/OFFボタンがONのとき有効です。

10 BALANCE - バランス・コントロール

左右レベルのバランスを調整することができます。

11 ATTENUATOR - アッテネ - タ - ON/OFFボタン

本機の出カレベルを標準状態から瞬時に音量を下げるができます。

減衰レベルは - 20dBです。



押して“ ON ” :LED点灯
再び押すと“ OFF ” :LED消灯

12 INPUT SELECTOR - 入力セレクト - スイッチ

オプション・ボードの各入力端子に対応するプログラム・ソースを選択します。選択したポジションのスロット番号が点灯し、INPUTディスプレイに入力(ボードの種類)が表示されます。

入力表示は、DISPLAY EDITボタンにより、好みの名称に変更することができます。(13ページ参照)

詳しい操作方法は、10ページ参照。

13 ディスプレイ部

各ボタン、ツマミの動作ポジションなどを、点灯により表示します。表示の詳細は、各項の説明を参照してください。

| 点 灯 | 操作するボタン、ツマミ | 動作状態 |
|---------|-------------------|----------------------|
| OFF | OUTPUTS OFF | 出力“ OFF ” |
| INV | OUTPUTS PHASE | 出力の位相が反転“ INVERTED ” |
| MONO | MONO | 出力がモノフォニック |
| TONE | TONE CONTROL | トーンコントロール:動作状態 |
| COMP | COMP | コンペンセーター:動作状態 |
| EXT DSP | EXT DSP | 外部デジタル機器挿入ON |
| PEAK | アナログ入力ボードのGAINツマミ | アナログ信号が入カオーバー |

INPUTディスプレイ

12INPUT SELECTORスイッチで選択する入力ソースを表示します。

LEVELディスプレイ

15VOLUMEでコントロールする音量レベルを数字で表示します。

14 リモート・センサー

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-24の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンダーを使用するときは発光部をここに向けてください。

15 VOLUME - ボリュ - ム調整

右へ回すと音量が増大し、左に回すと小さくなります。ツマミ外周に位置を示すLEDが点灯し、LEVELディスプレイに音量が数字で表示されます。

* 詳しい操作方法は、12ページ参照。

* リモート・コマンダーRC-24でも同様に作動させることができます。

16 OPTION 1 ~ 8 - オプション・ボード増設スロット

デジタル/アナログ入・出力関係のオプション・ボードを増設するスロットです。用途に応じて空いている任意のスロットに、任意のボードを増設することができます。

ボードの種類と取付方法は20~26ページ参照。

スロットは、ADB 2 (Accuphase Digital Bus) Interface規格に対応しています。ADB 2またはADB規格のどちらのボードも使用できます。

現在アナログ関係のADB2対応ボードは、AI2-U1とAI2-B1です。

17 OPTION 8 - 標準装備:アナログ入力ボード AI2-U1

入力端子はアンバランス方式の一般的なアナログ入力端子です。CD、チューナー、LINEまたはAUXなどのライン入力として使用できます。

標準でOPTION 8に装着されていますが、OPTION 1~8の任意のスロットに移動可能です。

ADB2規格対応ボードです。

入力信号は、ボード内のA/Dコンバーターによりデジタル信号に変換されます。

ボード内スイッチで、サンプリング周波数を48kHzまたは96kHzに切替可能です。

注意

次の場合にはボード内スイッチを48kHzに切り替えてください。

96kHzに対応していないデジタル・レコーダーで録音する場合

EXT DSP端子に、DG-28や96kHzに対応していないデジタル機器を接続して使用する場合

GAIN:ゲイン調整用スイッチ
通常は、0dBポジションでご使用ください。

入力が大きくPEAKが点灯する場合には、-6dBポジションに切り替えてください。時々点灯する程度なら、実用上問題ありません。

18 OPTION 7 - 標準装備:デジタル入・出力ボード DIO-OC1

デジタル信号を同軸ケーブルや光ファイバーなどで入・出力することができます。デジタル信号は、左右チャンネルの音声や制御に必要な情報が一つの信号系で伝送する方式を採用していますから、伝送するときのケーブルは左右で1本です。

標準でOPTION 7に装着されていますが、OPTION 1~8の任意のスロットに移動可能です。

入力は、CDトランスポート、DVD、CS-PCMチューナーなどのデジタル出力端子と接続してください。(使用方法は14ページ参照)

MD、DATなどデジタル・レコーダーを接続することができ、デジタル信号で録音・再生することができます。(使用方法は16ページ参照)

19 EXT DSP - 外部デジタル機器接続スロット

デジタル入・出力ボードを増設します。外部デジタル機器を接続すれば、この機器の信号をEXT DSPボタンでON/OFFすることができます。

当社のデジタル・グラフィック・イコライザーDG-28を接続すれば、内部はデジタル信号のまま、理想的な音場再生ができます。

*DG-28の接続方法は18ページ参照

20 OUTPUTS - ボリューム・コントロール デジタル出力スロット

DC-330のボリュームでコントロールできる情報を含んだ、デジタル信号出力端子です。

デジタル・チャンネル・ディバイダーDF-35の入力端子と接続します。

*DF-35の接続方法は19ページ参照

注意

デジタル・レコーダーを接続して録音することはできません
このスロットに増設したオプションボードの入力端子は使用できません。

21 ANALOG OUTPUTS 1、2 - アナログ出力端子

このアナログ出力は、パワーアンプの入力端子と接続します。

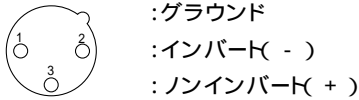
UNBALANCED (不平衡出力) ジャック

通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルで接続します。

BALANCED (平衡出力) コネクター

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力コネクターです。アンプの入力コネクターがバランス入力を装備している場合には、良質なオーディオ信号の伝送が可能です。

ピンの極性は、



となっていますので、パワーアンプ側の極性を合わせて正しく接続してください。

バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

22 UNSWITCHED - 電源スイッチと連動しないACコンセント

本機の電源スイッチと連動していません。

接続する機器の消費電力の合計が200Wを超えないようにご注意ください。

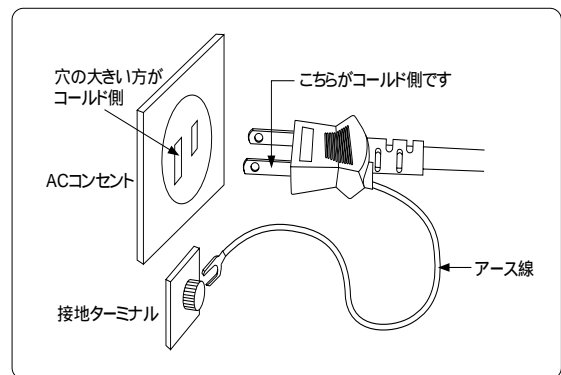
23 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



電源は必ずAC100V、50/60Hz家庭用コンセントを使用する。

電源コードに付いているアース線の接続
付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。
接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



電源コードの極性について

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。機器とこの極性を合わせることで、音質的に良い結果が得られる場合があります。本機も電源の極性を合わせるように配慮し、プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。なお、この極性は合わせなくても実用上問題になることはありません。

- * 本機の電源ラインには高周波雑音を遮断するため、ラインフィルターが挿入されていますので、極性チェッカーで確認すると、極性が生じないか、または誤表示する場合があります。
- * 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側ですが、不明のときはチェッカーで確認をする必要があります。
- * 本機のUNSWITCHEDコンセントも向かって左側がコールド側です。



内部をあけると危険です。

電源が入らなくなった場合は、内部で異常が発生した可能性がありますので、必ず電源コードを抜いて、当社の品質保証部または当社製品取扱店へご連絡ください。

5. リモート・コントロール

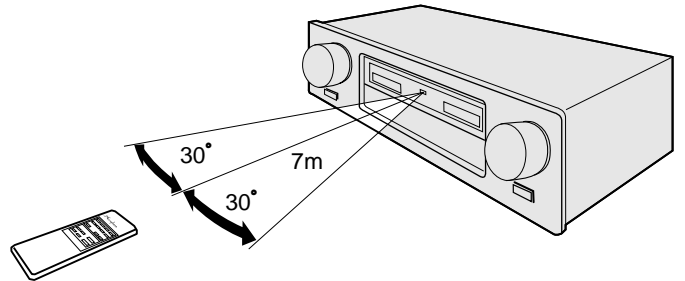
リモート・コマンダーRC 24

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-24を使うと、離れたところからDC-330の機能をコントロールすることができます。
(機能の詳細は2ページ参照。)

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の⑭リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。
直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。



電池について

電池の交換時期

電池は普通に使って約8ヵ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単4形を2個とも新しい電池に交換してください。

⚠ 注意

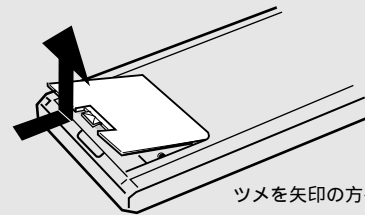
乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、⊕(プラス)、⊖(マイナス)を正しく合わせてください。
新しい電池と、1度使用したものを混ぜないようにしてください。

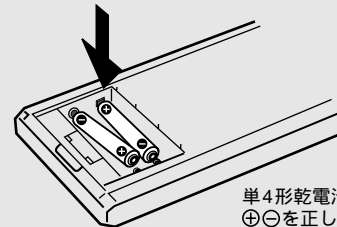
同じ形状でも、性能の異なるものがありますから、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないようにしてください。
長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておいてください。

万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。

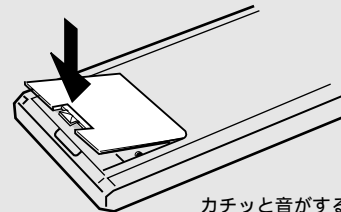
乾電池の交換



ツメを矢印の方へ押して蓋を開ける。



単4形乾電池2個、
⊕⊖を正しく入れる。



カチッと音がするまで閉める。

6. ご使用方法

初期設定は..... (設定変更した各機能は、電源をOFFにしても記憶されます)

- VOLUME: LEVELディスプレイに [Min] 表示
- ATTENUATOR: LED 消灯
- OUTPUTS(OFF, INV) MONO, TONE, COMP, EXT DSP: 文字表示消灯
- ディスプレイの標準モード (INPUTディスプレイ: 標準入力表示
LEVELディスプレイ: 音量の表示

入力表示を初期設定に戻すには.....

名称を変更した、入力セレクターの表示を「初期設定」に戻すことができます。

- [8] DISPLAY EDITのENTERボタンを押しながら[6] COMPボタンを押す。
- ディスプレイに [Clear] [Sel. Name] と4秒間表示され、入力は初期設定の表示に戻ります。

使用される前に

- * POWERスイッチを入れる前に、デジタル入・出力、アナログ出力のLEFT(左)/RIGHT(右)など、各機器の接続をよく確かめてください。
- * 本機の各機能の詳細は「各部の動作説明」を参照してください。
- * CDプレーヤー、チューナー、レコーダーなどの詳しい使用方法は、それぞれの「取扱説明書」を参照してください。

入力ソースの選択

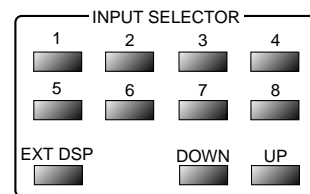
[12] INPUT SELECTOR

INPUT SELECTORツマミを回して、プログラム・ソースを選択します。選択したポジションは、ツマミ外周のLEDが点灯し、INPUTディスプレイに入力文字が表示されます。

表示例

OPTION 6: ボードが入っていない
OPTION 7: デジタル入・出力ポート [DIO-OC1]
OPTION 8: アナログ入力ポート [AI2-U1]
ボリュームはリニアモードで [33.0] の場合

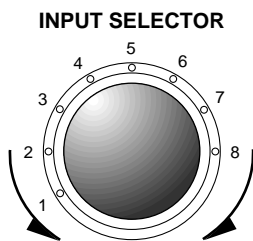
リモート
コマンダー では



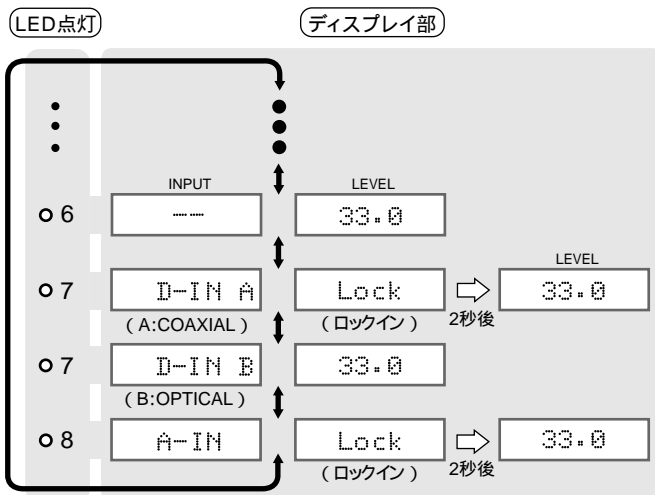
各ボタンを押して、オプション・スロット番号を選択します。
[UP] [DOWN] を押しすと、スロット番号を順番に選択できます。

設定状況

- スロットにボードが入っていない
- COAXIAL端子で接続、デジタル信号をロックイン
- OPTICAL端子には接続していない
- ボード内のA/Dコンバーターでロックイン



ツマミ外周の数字は、リアパネルのオプション・ボードのスロット番号(各入力端子)に対応します。



オプション 7は「2入力」のため、ツマミを回すと、「7のLED」は2回点灯します。

INPUTディスプレイの表示例

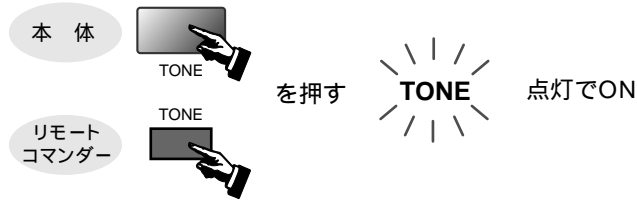
- アナログ入力のボード [A-IN]
- デジタル入力のボード [D-IN]
- 2入力のボード (COAXIAL 端子 [D-IN A]
OPTICAL 端子 [D-IN B]
- 2スロット使用するボードをOPTION 4, 5に挿入
..... 4番のLEDが点灯し、[A-IN]または[D-IN]と表示
- スロットにボードが入っていない場合 --
- スロットに出力ボードが入っている場合 --

2入力端子のボードが入っている場合は、ツマミを回すとLEDの点灯ポジションはそのまま、ディスプレイ表示が変わります。入力信号にロックインした場合は、LEVELディスプレイに約2秒間 [Lock] と表示します。アナログ関係のオプション入力ボードは、ボード内のA/Dコンバーターでロックインしますので、機器の接続に関係なく表示します。デジタル入力ボードは、接続していてもソース側の電源が入っていなければロックインしません。入力表示は、DISPLAY EDITボタンにより、好みの名称に変更することができます。(13ページ)

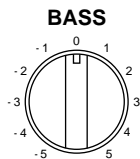
トーンコントロールの使用

- 5 TONEボタン
- 2 BASS/TREBLE

TONE ボタンを“ ON ”でBASS(低音)/TREBLE(高音)コントロールができます。



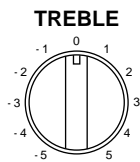
*“ OFF (TONE 消灯) になるとBASS/TREBLEツマミの位置に関係なく、フラットな特性になります。



BASS - 低音コントロール

センター(0)から右にまわすと低音増強、
左にまわすと減衰します。

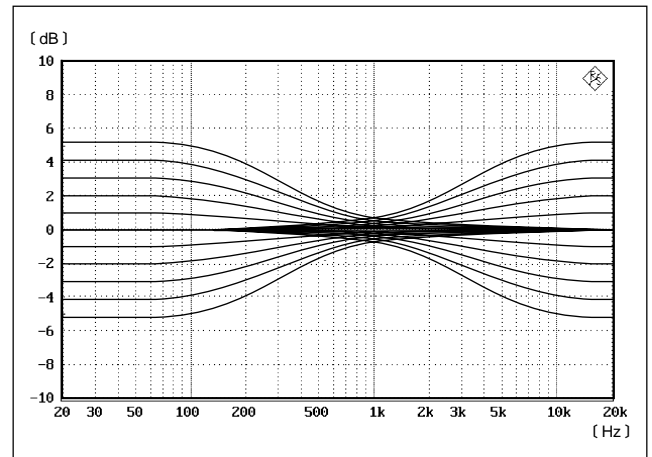
ターンオーバー周波数 : 315Hz
変化量 : 50Hzで±5dB



TREBLE - 高音コントロール

センター(0)から右にまわすと高音増強、
左にまわすと減衰します。

ターンオーバー周波数 : 3.15kHz
変化量 : 20kHzで±5dB

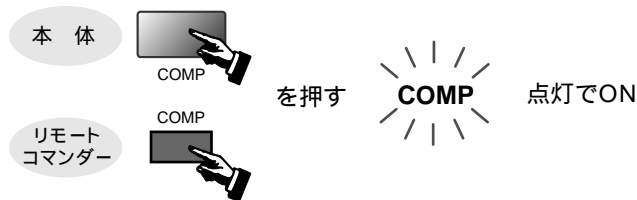


トーンコントロール特性

コンペンセ - タ - (聴感補正) の使用

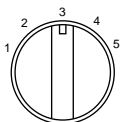
- 6 COMPボタン
- 9 COMPENSATORスイッチ

COMP(コンペンセーターON/OFF)ボタンがONの時、コンペンセーター切替スイッチが有効になり、5種類のカーブを選択することができます。



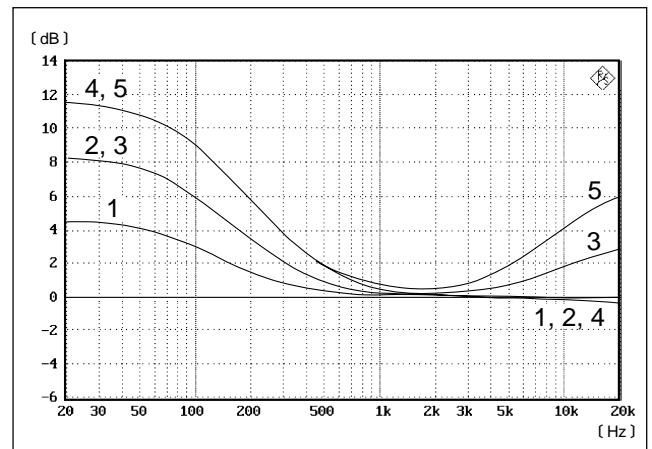
*“ OFF (COMP 消灯) になるとCOMPENSATORツマミの位置に関係なく、フラットな特性になります。

COMPENSATOR



希望のカーブを選択する
(カーブは右図1～5の5種類)

- 1 : +3dB(100Hz)
- 2 : +6dB(100Hz)
- 3 : +6dB(100Hz) , +3dB(20kHz)
- 4 : +9dB(100Hz)
- 5 : +9dB(100Hz) , +6dB(20kHz)

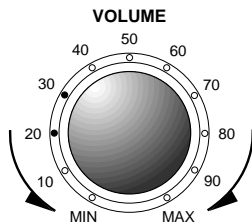
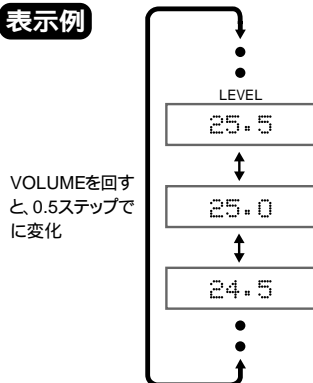


コンペンセーター特性

VOLUME操作とモード変更

8 DISPLAY EDITボタン
15 VOLUME

表示例



- ツマミ外周の数字は、左のLEVELディスプレイ表示 (Linearモード) に対応
- イラストでは数字20と30のLEDが点灯

VOLUMEを回すと

音量を増減することができます。

音量は、LEVELディスプレイの数字で表示します。

ツマミの回転はエンドレスですので、VOLUME位置はツマミ外周のLEDの点灯で示します。

表示例:ツマミ外周の数字とLED点灯

ツマミを回して、音量が外周数字の間にある場合(イラストでは25.0付近のとき)は、20と30のLEDが両方点灯(輝度暗い)します。さらにツマミを回して、ディスプレイ数字が30に近くなると、20のLEDは消灯し、30のLEDだけの点灯(輝度上がる)になります。

リモート
コマンダー



- + を押すと音量が増大し、
- を押すと小さくなります。

ディスプレイ表示や、LED点灯動作は、VOLUMEツマミと同じです

モード変更

DISPLAY EDIT(ディスプレイ・モード/編集)ボタンの **MODE** と **ENTER** を使用します。

(1) 音量の表示モードを選択 (LinearまたはdB) することができます。出荷時はLinearモードです。

表示例

押すたびに5種類のモードが切り替わる

ボリューム・モードを選択する

| | | |
|---------|--------|-------------------------------|
| INPUT | LEVEL | |
| D-IN A | 33.0 | 標準モード |
| D-IN A | A/D | 入力文字変更モード① (登録してある名称に変更) |
| D-IN A | D-IN A | 入力文字変更モード② (1文字づつ変更) |
| Volume | Linear | ボリューム・モード (LinearかdBを選択) |
| Dot LED | on | LED点灯ON/OFFモード (ONかOFFを選択) |

13ページで使用

カーソル点滅

Volume | Linear | 左に回す

⇕ | どちらかを選択

dB | 右に回す

Linear モードでは

MIN 0.5 ... 99.5 MAX まで、リニア(0.5ステップ)に変化します。

dB モードでは

MIN -94.0dB ... +11.9dB +12.0dB まで、音量をdBで表示します。

左または右に回して (この間、音量は変化しません)

押して決定

(2) INPUT SELECTORおよびVOLUMEツマミ外周のLED点灯をON/OFFすることができます。

MODEボタンを押して **Dot LED** モードを選択する。

VOLUMEを回して **ON** が **OFF** を選択する。

ENTERを押して決定

ON モード : INPUT SELECTORおよびVOLUMEツマミ外周のLED点灯

OFF モード : INPUT SELECTORおよびVOLUMEツマミ外周のLED消灯

出荷時は **ON** モードです。

入力ポジションの表示変更

8 DISPLAY EDITボタン
15 VOLUME

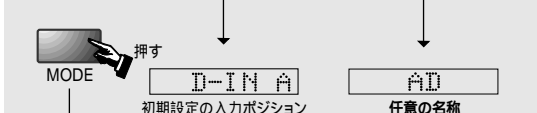
例: D-IN A から CD 1 に変更する。

① INPUTディスプレイに変更したい入力ポジションを表示します。

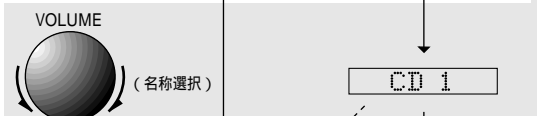


A 本機に登録されている名称を使う場合

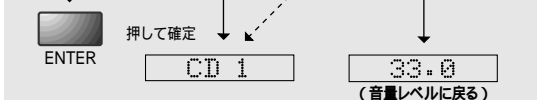
② MODEボタンを押して、入力文字変更モード(A)を選択する。LEVELディスプレイに登録されている任意の名称が表示されます。(INPUTディスプレイには、初期設定の入力端子ポジションが表示されます。)



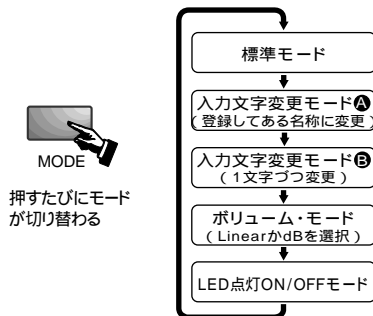
③ VOLUMEを回して希望の名称を選択 (LEVELディスプレイに表示) します。



④ ENTERボタンを押して確定すると、INPUTディスプレイの表示は希望の名称に変更されます。



8 DISPLAY EDITボタン

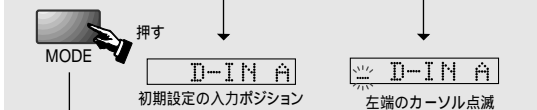


登録されている名称

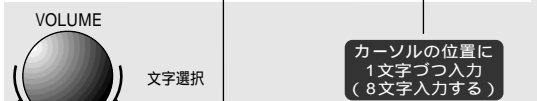
AD, CD, CS-PCM, DAT, MD, Tape, Tuner, SACD, DVDなど及びそれらのナンバー付 (AD, AD 1, AD 2, CD, CD 1, CD 2.....など)

B 1文字ずつ入力する場合(手順①から続く)

② MODEボタンを押して、入力文字変更モード(B)を選択する。LEVELディスプレイに前回入力された文字と、左端に点滅したカーソルが表示されます。



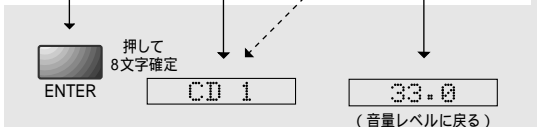
③ VOLUMEを回して希望の文字を選択 (点滅表示) します。



④ ENTERボタンを押すと、選んだ文字が点灯(確定)になり、カーソルは右に1文字分移動します。



⑤ 手順③④を繰り返し8文字入力後、ENTERボタンを押して確定します。INPUTディスプレイの表示は希望の名称に変更されます。



1文字を消すときは
1文字分空けるには

空白(カーソルだけの点滅)を選択して、入力(ENTERボタンを押す)します。

カーソルを移動するには

そのままENTERボタンを押せば、1文字分ずつカーソルが右に移動します。

入力を途中でやめるときは

MODEボタンを3回押します。手順②の状態に戻ります。

途中で文字を間違えた場合

(カーソルを左には移動できません)

方法1: MODEボタンを3回押してキャンセルし、手順②の状態に戻り最初から入れ直します。

方法2: そのままENTERボタンを押して行き、確定してしまいます。再度スタートして、手順②の時、間違えた名称が表示されるので、ENTERボタンを押してカーソルを移動し、間違えた文字を点滅させ、正しい文字を入力します。

表示できる文字・記号 - 96種類

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| アルファベットの大きい文字 | ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ |
| アルファベットの小さい文字 | abcdefghijklmnopqrstuvwxyz |
| 数字 | 0123456789 |
| 記号 | 空白!#\$%&(')*+,-./:;=?@[\] _ { } ~ |

⚠ 注意

そのポジションの名称を変更した後、接続機器を変えたり、オプションを入れ替えた場合、変更した名称はそのまま残ってしまいます。この様な場合は再度新しい名称に変更してください。
変更した表示を初期設定に戻すには、10ページ参照。

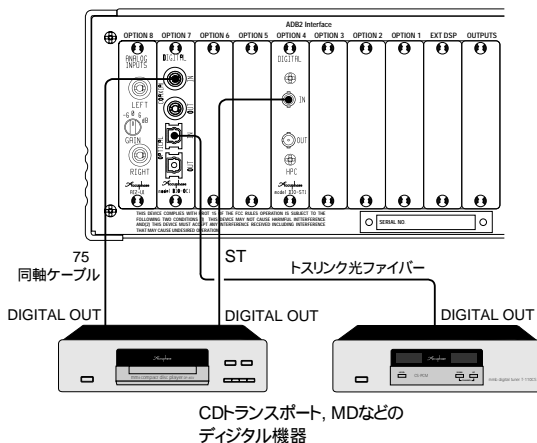
CD、MD、DATなどをデジタル入力で再生

CDトランスポート、MD、DAT、CS-PCMチューナーなどをデジタルで接続します。

接続例

OPTION 7 : DIO-OC1
OPTION 4 : DIO-ST1

各オプション・ボードのIN
↕
ソース側デジタル機器のDIGITAL OUT



デジタル入力のあるオプション

デジタル入・出力ボード [DIO-OC1]
HPCコアキシャル入力ボード [DI-BNC1]
HPCオプティカル入・出力ボード [DIO-ST1]
AES/EBU入・出力ボード [DIO-PRO1]

SACDトランスポート(DP-100)の接続

HS-Link入力ボード: DI2-HS1を増設して、HS-Linkケーブルで接続します。(22ページ参照) 詳しくはDP-100の説明書を参照してください。

接続終了後は、次の手順で操作をしてください。

- 本機と共に入力機器、パワーアンプの電源を ON にします。
- 入力セレクターで、接続した入力オプションを選択(表示)します。
- 入力機器を演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。

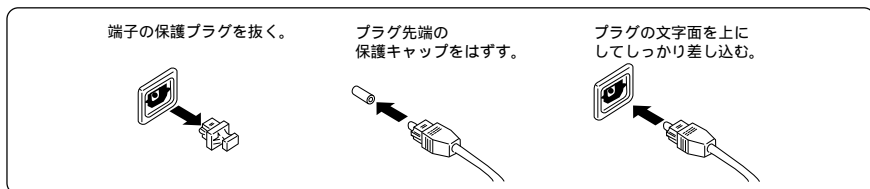
接続ケーブル

COAXIAL DIO-OC1

付属のピンプラグ付75 同軸ケーブル(DL-15)で接続してください。

OPTICAL DIO-OC1

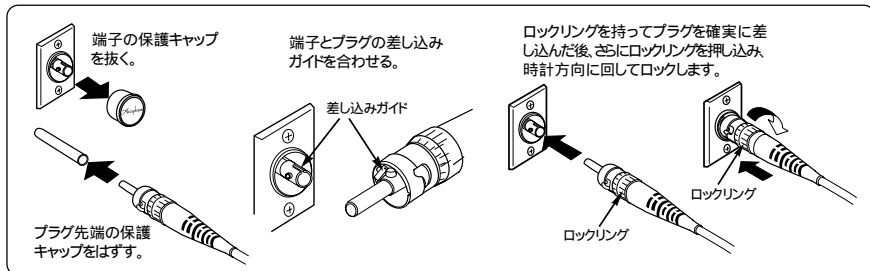
EIAJ規格のトスリンク光ファイバー接続用端子です。当社で、コアに石英ガラスを使用した光ファイバー(LG-10等)を別売しています。



HPC OPTICAL:ST DIO-ST1

STタイプのHPC光ファイバー(別売:HLG-10等)で接続してください。

STは、AT&T社の登録商標です。



⚠注意

光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く(直径10cm以上)束ねておいてください。決して強く曲げないでください。もちろん、切断、再加工などはできません。

光ファイバーは、コア(芯材)に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は天敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けておいてください。

光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行かない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

HPC: BNC DI-BNC1

75 のBNCコネクター付同軸ケーブル(市販)で接続してください。

AES/EBU DIO-PRO1

AES/EBU規格に対応したXLRコネクターで接続してください。
当社で、HPCバランス・ケーブル(HLC-10等)を別売しています。

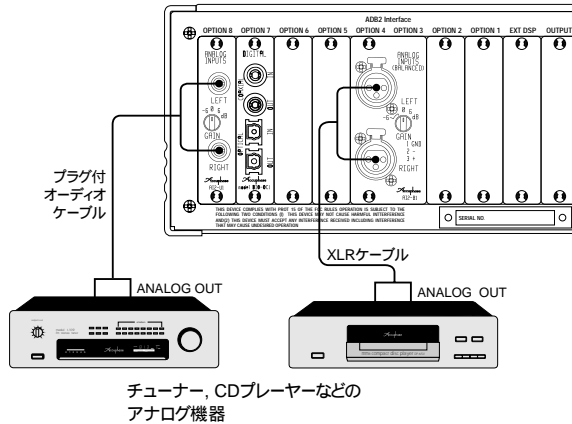
CD、FM/CS-PCMチューナーなどをアナログ入力で再生

アナログ機器も、通常のプリアンプと同じように接続できます。

接続例

OPTION 8 : AI2-U1
OPTION 3,4 : AI2-B1

オプション・ボードのINPUT
↕
アナログ機器のANALOG OUT



チューナー、CDプレーヤーなどの
アナログ機器

デジタル入力と同じ要領で、電源を入れて、入力セクターを合わせ(接続例ではOPTION 8またはOPTION 3) ボリュームを上げると演奏が聴こえます。

アナログ入力のあるオプション

ライン入力ボード [AI-U1, AI2-U1]

AI2-U1はオプション8に標準装備

バランス入力ボード [AI-B1, AI2-B1]

ADB2 Interface対応ボード(AI2-U1, AI2-B1)は、ボード内部のスイッチで、サンプリング周波数48/96kHzの設定をします。

96kHz: 通常演奏の場合(出荷時の設定)

48kHz: DG-28をEXT DSPに接続して使用する場合
レコーダーを接続して録音する場合

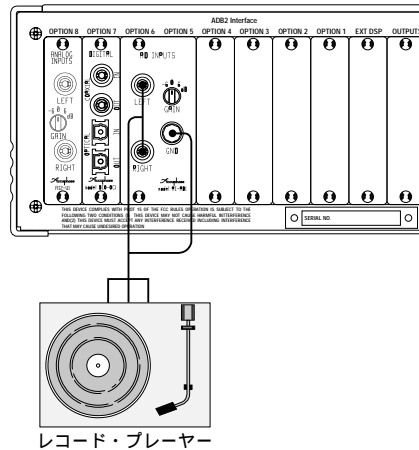
SACDやDVD-Audioのアナログ接続にはADB2対応ボード(AI2-U1, AI2-B1で96kHzに設定)を使用してください。

アナログ・ディスクの再生

オプションでアナログ・ディスク入力ボード(AI-AD1)を増設します。

接続例

OPTION 5,6 : AI-AD1



レコード・プレーヤー

AI-AD1を挿入前に、ボード上のディップ・スイッチで、使用するカートリッジMM/MCの選択とサブソニック・フィルターON/OFFの設定をします。

MM/MCそれぞれを専用にするには、AI-AD1を2枚増設します。

レコード・プレーヤーの出力ケーブルを入力端子へ正しく接続してください。プレーヤーの出力ケーブルといっしょに出ているアース線はGND(グラウンド)端子へ接続します。

接続終了後は、次の手順で操作をしてください。

本機や関連機器の電源スイッチを入れて、入力セクターでアナログ・ディスク入力ボード(接続例の場合ではOPTION 5)を選択してください。

カートリッジをレコード面におろし、ボリュームを上げると演奏が聴こえます。ボリュームを上げ下げして再生状態を確認してください。

レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動でスピーカーの振動板がゆれたりする場合は、サブソニック・フィルターをONに設定すると、超低域ノイズによる可聴帯域への影響を軽減することができます。

レコ - ダ - での録音・再生

デジタル / アナログ・レコーダーどちらも接続でき、録音・再生ができます。

再生系が1系統ですから、録音中のモニターはできません。

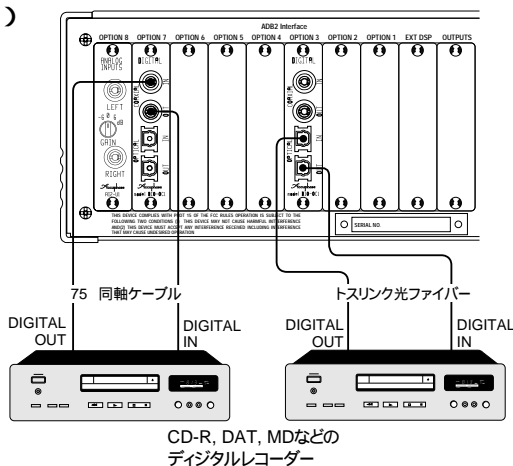
各オプションのOUTPUTS端子には、入力セクターで選択した(現在演奏している)ソースが出力され、録音可能になります。

デジタル・レコーダーの接続

DIGITALオプション・ボードの IN 端子 レコーダーの DIGITAL OUT"
 DIGITALオプション・ボードの OUT 端子 レコーダーの DIGITAL IN"

接続例 (2台の接続例)

OPTION 7 : DIO-OC1
 OPTION 3 : DIO-OC1



再生 : デジタル入力のあるオプション
 HPCコアキシャル入力ボード [DI-BNC1]

録音・再生 : デジタル入・出力のあるオプション
 デジタル入・出力ボード [DIO-OC1]
 HPCオプティカル入・出力ボード [DIO-ST1]
 AES/EBU入・出力ボード [DIO-PRO1]

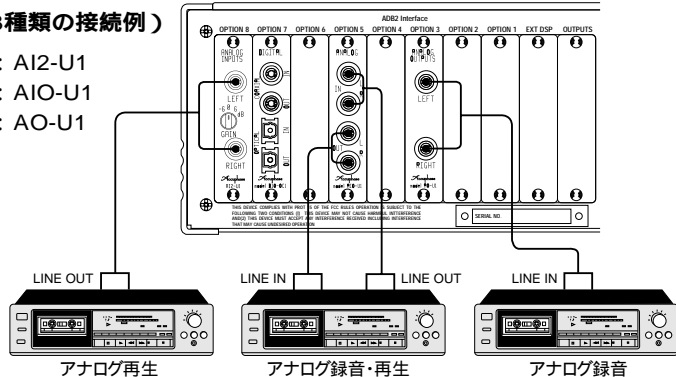
アナログ・テープ・レコーダーの接続

DATやMDでアナログ録音・再生をする接続

アナログ・オプションの IN 端子 レコーダーの LINE OUT"
 アナログ・オプションの OUT 端子 レコーダーの LINE IN"

接続例 (3種類の接続例)

OPTION 8 : AI2-U1
 OPTION 5 : AIO-U1
 OPTION 3 : AO-U1



注意

ピンプラグ付オーディオ・ケーブルを使用して
 LEFT, RIGHTを正しく接続します。

再生 : アナログ入力のあるオプション
 ライン入力ボード [AI-U1, AI2-U1]
 バランス入力ボード [AI-B1, AI2-B1]

録音・再生 : アナログ入・出力のあるオプション
 ライン入・出力ボード [AIO-U1]

録音 : アナログ出力のあるオプション
 ライン出力ボード [AO-U1]
 バランス出力ボード [AO-B1]

再生: プレイバック

入力セクターで、接続したソース(入力端子)に合わせ、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

録音: レコ - ディング

録音したいプログラム・ソースを入力セクターで選択し、スピーカーから音を出して確認します。

この信号が各ボードのOUTPUT端子からレコーダーへ出力されます。

デジタル録音の場合は、レコーダー側で録音側のサンプリング周波数を設定(変換)します。

レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。

本機のボリューム、バランス、トーン、モードなどは、録音される音には関係しませんので音量を下げて静かに録音することができます。アナログの録音レベルは、レコーダー側で調整してください。

各オプションのOUTPUT端子には、同一信号が出力されますので、接続してあるレコーダー(但し、録音側のサンプリング周波数に注意)で同時に録音できます。

注意

オプションの「HS-Link入力ボード: DI2-HS1」を増設して、SACDトランスポートDP-100をHS-Linkで再生している時、各ボードのOUTPUT端子へは出力できないため、録音はできません。

注意1

* デジタル録音の場合、SCMS(シリアルコピー・マネージメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のDATやMDにデジタルで録音することはできません。ただし、アナログで録音する場合には制限なく何回でも可能です。

* デジタル デジタルでの録音の場合、ソース側とレコーダー側のサンプリング周波数のマッチングが重要です。基本的には、相互の周波数が合わないと録音できません。

サンプリング周波数96kHzのソースは、対応していないレコーダーでは録音できません。

MD、CD-Rへのデジタル録音は、サンプリング周波数が44.1kHzです。32kHzまたは48kHzのソースは、レコーダー側で44.1kHzに自動変換します。(一部の機種を除く)

DATは、ソース側の周波数に自動的に追従します。(一部の機種を除く)

注意2

アナログ関係のADB2対応ボードで96kHzの設定をして、SACDやDVD-Audioプレーヤー、チューナーなどのアナログ信号を入力した場合

デジタル録音は.....

デジタル関係各ボードのOUTPUT端子にはサンプリング周波数96kHzの信号が出力されます。96kHzに対応していないデジタル・レコーダーでは、録音できません。

アナログ録音は.....

アナログADB対応出力ボードでは録音できません。(96kHzの信号はロックしないので、OUTPUT端子への出力はありません)

録音するには..... 次のどちらかの方法で入力してください

ADB2対応ボード内のスイッチで48kHzに設定してアナログ入力する。

ADB対応ボードでアナログ入力する。

アナログADB2対応ボード (48/96kHz対応)

(入力) AI2-U1, AI2-B1

アナログADB対応ボード (48kHz対応)

(入力) AI-U1, AI-B1

(入・出力) AIO-U1

(出力) AO-U1, AO-B1

EXT DSPの使用: DG-28の接続例

7 EXT DSP - 外部デジタル機器挿入ON/OFFボタン

リアパネルEXT DSPオプション・スロットにデジタル入・出力ボードを増設します。

DG-28を接続後は、EXT DSP ボタンで挿入をON/OFFすることができます。

デジタル入・出力のあるオプション

デジタル入・出力ボード DIO-OC1
HPCオプティカル入・出力ボード DIO-ST1

AES/EBU入・出力ボード(DIO-PRO1)は、「2スロット」
使用します。このため左隣のOPTION 1が空いてい
れば使用することができます。

注意

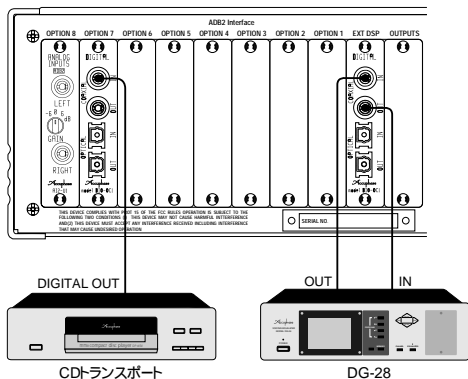
EXT DSP端子に機器が接続されていないとき、また
は信号をロックしないときは、EXT DSPボタンを押し
てONにするとアナログ出力は途切れます。

入力ソースが、アナログ関係のADB2対応ボードで
96kHzの設定をしてあると、「EXT DSPボードの
OUTPUT端子」にはサンプリング周波数96kHzの信
号が出力されるため、DG-28はロックしません。

従って、アナログ入力する場合は、
(ADB2対応ボードで48kHzの設定にする。
またはアナログ入力もADB対応ボードを使用する。

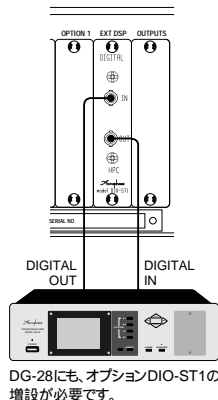
接続例 ①

OPTION 7 : DIO-OC1 (CDを入力)
EXT DSP : DIO-OC1 (DG-28を接続)



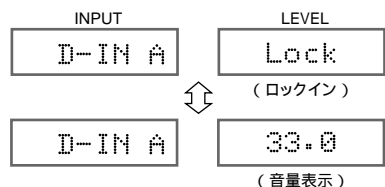
接続例 ②

OPTION 7 : DIO-OC1 (CDを入力)
EXT DSP : DIO-ST1 (DG-28を接続)



押すたびにDG-28挿入のON/OFFが切り替わる
(Lock表示は5秒後に、通常接続時の表示に戻る)

表示例



点灯 DG-28の挿入 ON



消灯 DG-28の挿入 OFF

DIO-OC1を増設して、COAXIALと
OPTICAL両方で接続した場合は、
COAXIAL端子が優先します。

注意

DC-330にDP-100をHS-Linkで入力、DG-28をデジタル接続する場合には、EXT DSPスロットにDIO2-DG1を増設します。

SACDトランスポートDP-100など48kHzを超えるハイサンプリング・ソースをDC-330に入力して、DG-28と接続する場合には、DC-330のEXT DSPスロットに『DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード:DIO2-DG1(22ページ参照)を増設して、同軸ケーブルでDG-28と接続します。(詳しくはDP-100の取扱説明書を参照してください。)

DIO2-DG1は2スロット用ですから、左隣のOPTION 1も使用します。

DIO2-DG1を使用するとき、DC-330とDF-35のデジタル接続はHS-Linkを使用してください。

OUTPUTSの使用:チャンネル・ディバイダーDF-35の接続例

リアパネルOUTPUTSオプション・スロットにデジタル出力ボードを増設します。
下記のボードの出力端子を使用してください。このスロットに増設したボードの入力端子は、使用できません。

詳しい接続は、DF-35の「取扱説明書」を参照して下さい。

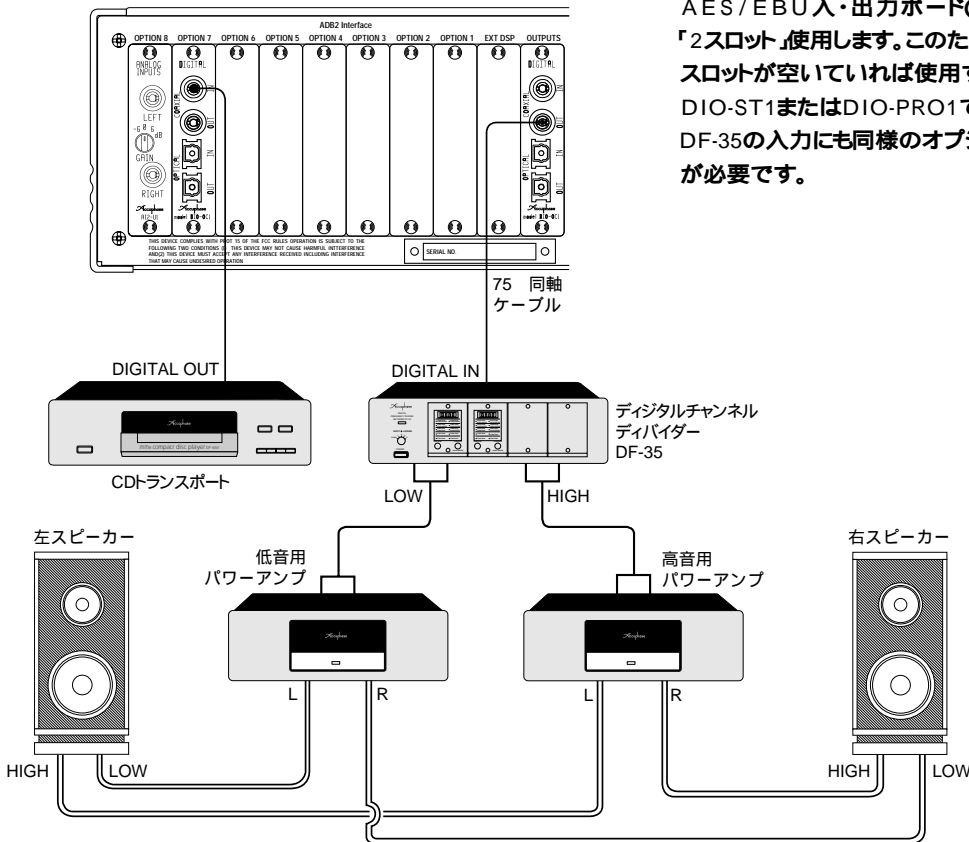
接続例

OPTION 7 : DIO-OC1 (CDを入力)
OUTPUTS : DIO-OC1 (DF-35を接続)
2Wayの場合

デジタル出力のあるオプション

| | |
|------------------|---------|
| デジタル入・出力ボード | DIO-OC1 |
| HPCオプティカル入・出力ボード | DIO-ST1 |

AES/EBU入・出力ボード(DIO-PRO1)は、「2スロット」使用します。このため、左隣のEXT DSPスロットが空いていなければ使用することができます。DIO-ST1またはDIO-PRO1で接続する場合にはDF-35の入力にも同様のオプション・ボードの増設が必要です。



⚠ 注意

OUTPUTSスロットには、アナログ用の入・出力ボードを絶対に使用しないでください。間違えて接続した場合には、ショックノイズでスピーカーを破損する原因となります。

注意

DC-330にDP-100をHS-Linkで入力、その出力をDF-35とデジタル接続する場合には、HS-Linkで接続します。

SACDトランスポートDP-100などのハイサンプリング・ソースをDC-330に入力、DF-35と接続し、デジタルでマルチアンプシステムを構築する場合には、DC-330のOUTPUTSスロットに『HS-Link出力ボード:DO2-HS1』を増設、またDF-35に『HS-Link入力ボード:DI2-HS1』を増設して、HS-Linkケーブルで接続します。(ボードは22ページ参照)

(詳しくはDP-100の取扱説明書を参照して下さい。)

7. オプション・ボード

DC-330の入力/録音端子は、全てオプション・ボードで対応します。このため、本機はSACD、DVD-Audioなどの次世代フォーマットに対応できる、ADB 2インターフェース規格のオプション・スロットを装備しています。

ライン入力ボード(AI2-U1)とデジタル入・出力ボード(DIO-OC1)が標準装備されていますが、この他にも豊富なオプションがたくさん用意されていますので、用途に応じてスロットに増設してください。DC-330は、フル・デジタル信号処理のプリアンプですが、アナログ関係の入・出力もオプション・ボードにより、従来のプリアンプと同様の感覚で操作することができます。

任意のスロットに、任意のオプション・ボードを増設することができます。

ボードは、ADB(Accuphase Digital Bus)またはADB 2 Interface規格に対応しています。

従来のDC-300、DG-28等に使用している、ADB規格のオプション・ボードはそのまま使用することができます。

オプション・ボードを増設して、セレクターで選択すれば、入力が文字ディスプレイされます。

入力の表示は、DISPLAY EDITボタンにより、好みの入力名称に変更することができます。

オプション・ボードを増設する前に、必ずボードに添付している説明書をお読みください。

*表示価格は税別です。

オプション・ボードのサンプリング周波数対応状況

○ : 対応可
× : 対応不可

デジタル関係

| | | 最大48kHz | 最大96kHz |
|---------------------|-----------|--------------------------------|---------|
| HPCコアキシャル入力ボード | DI-BNC1 | | |
| HPCオプティカル入・出力ボード | DIO-ST1 | | |
| デジタル入・出力ボード | DIO-OC1 | | |
| AES/EBU入・出力ボード | DIO-PRO1 | IN | OUT |
| | | | × |
| DG-28用広域デジタル入・出力ボード | DIO2-DG1 | DP-100など48kHz以上のハイサンプリング信号にも対応 | |
| HS-Link入力ボード | DI2-HS1 * | 最大192kHz | |
| HS-Link出力ボード | DO2-HS1 * | 最大192kHz | |

* HS-Linkは2.8224MHz/1bitのDSD信号にも対応

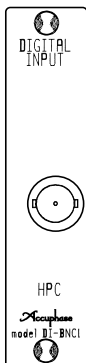
アナログ関係

| | | 48kHz | 96kHz |
|----------------|--------|-------|-------|
| ライン入力ボード | AI-U1 | | × |
| ライン入力ボード | AI2-U1 | | |
| バランス入力ボード | AI-B1 | | × |
| バランス入力ボード | AI2-B1 | | |
| アナログ・ディスク入力ボード | AI-AD1 | | × |
| ライン入・出力ボード | AIO-U1 | | × |
| ライン出力ボード | AO-U1 | | × |
| バランス出力ボード | AO-B1 | | × |

AI2-U1とAI2-B1は、内部に48/96kHzの切替スイッチを装備

デジタル関係

1 HPCコアキシャル入力ボード DI-BNC1 希望小売価格 30,000円



75 のBNCコネクター付同軸ケーブルを接続します。

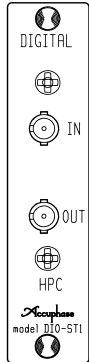
内部は、オプトアイソレーターによって入力と波形成形回路を完全分離しています。

保証特性、適合規格

入力フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠

デジタル入力 : 0.5Vpp 75

2 HPCオプティカル入・出力ボード DIO-ST1 希望小売価格 50,000円



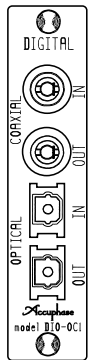
HPCオプティカル入・出力端子で、STタイプの光リンク・コネクタと接続します。
この端子は、HP社の150M BPS伝送能力を持つ超高速リンクを使用しています。

- *STは、AT&T社の登録商標です。
- *HPC光ファイバー(HLG-10等)は、当社で別売しています。

保証特性、適合規格

| | |
|--------|--------------------|
| フォーマット | : EIAJ CP-1201に準拠 |
| コネクタ形状 | : STタイプ |
| 入力レベル | : 光入力 -30 ~ -10dBm |
| 出力レベル | : 光出力 -19 ~ -14dBm |

3 デジタル入・出力ボード DIO-OC1 希望小売価格 40,000円



同軸、光ファイバーの入・出力端子を装備、2系統の入力と2系統の出力を接続することができます。

*同じボードが、OPTION 7の Slots に標準装備されています。

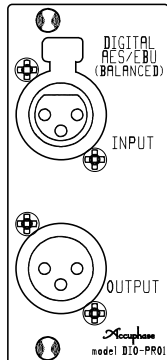
接続 “ IN ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL OUT ”
“ OUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL IN ”

COAXIAL: 75 同軸ケーブルで接続(ディスプレイにD-IN Aと表示)
OPTICAL: トスリンク光ファイバーで接続(ディスプレイにD-IN Bと表示)

保証特性、適合規格

| | |
|----------|----------------------------|
| 入力フォーマット | : EIAJ CP-1201に準拠 |
| デジタル入・出力 | : COAXIAL 0.5Vp-p 75 |
| | : OPTICAL 光入力 -27 ~ -15dBm |
| | : 光出力 -21 ~ -15dBm |

4 AES/EBU入・出力ボード DIO-PRO1 希望小売価格 60,000円



AES/EBU(業務用デジタル規格)に対応した、入・出力XLRコネクタを装備しています。この規格のコネクタを装備しているデジタル機器の入力やデジタルレコーダーを接続、録音・再生することができます。

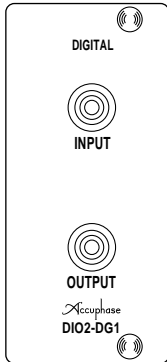
接続 “ INPUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL OUT ”
“ OUTPUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL IN ”

*HPCバランスケーブル(HLC-10等)は、当社で別売しています。

保証性能、適合規格

| | |
|-----------|--------------------|
| 入出力フォーマット | : EIAJ CP-1201に準拠 |
| デジタル入力 | : 0.5V p-p min 250 |
| デジタル出力 | : 3.0V p-p 110 |

DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード DIO2-DG1 希望小売価格 100,000円



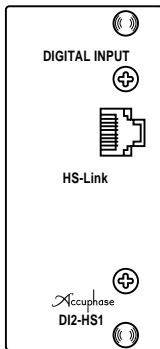
SACDなどサンプリング周波数48kHzを超えるデジタル信号に対応し、DG-28をデジタル接続して音場補正することができます。

DC-101, DC-330, DP-75Vの『EXT DSP』スロットに増設して、DG-28とデジタル接続します。

***2スロット使用するため、左隣のOPTION 1が空いていないと使用できません。**

***75 同軸デジタル・ケーブルでDG-28と接続します。**

HS-Link入力ボード DI2-HS1 希望小売価格 100,000円



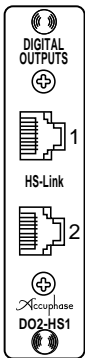
HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送する場合の、HS-Link入力ボードです。

DP-100をDC-330, DP-75V等に接続する場合に使用します。

専用のHS-Linkケーブル(DP-100に付属)で接続します。

当社別売ケーブル：HDL-15

HS-Link出力ボード DO2-HS1 希望小売価格 80,000円



HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送する場合の、HS-Link出力ボードです。

このボードをDC-330に増設することにより、DP-100のデジタル信号がDC-330を経由してDF-35までデジタル伝送が可能となります。

DC-330の『OUTPUTS』スロットにDO2-HS1を増設して、DF-35と接続します。

DF-35の入力には、HS-Link入力ボード『DI2-HS1』を増設します。

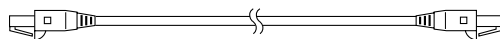
専用のHS-Linkケーブルで接続します。

当社別売ケーブル：HDL-15

オプション：HS-Linkケーブル(1.5m) HDL-15 希望小売価格 10,000円

HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送するケーブルです。

HS-Link(RJ-45)コネクタの装備が必要です。

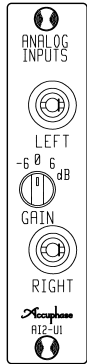


シールド付ツイスト・ペアー8芯OFCケーブル(TIA/EIA-568A CAT.5)

DP-100に1本付属しています。

アナログ関係

ライン入力ボード AI2-U1 [96kHz, 24bit] 希望小売価格 60,000円



アンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。CDプレーヤー、チューナーなどアナログ信号の入力として使用します。

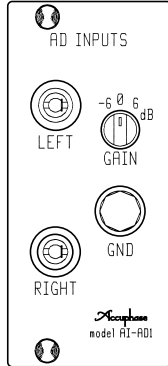
- *同じボードが、OPTION 8の slots に標準装備されています。
- *入力された信号は、ボード内のA/Dコンバータによって分解能24bitデジタル信号に変換されます。
- *GAINスイッチは通常0dBで使用しますが、PEAKが点灯する場合には、-6dBにしてゲインをさげてください。

内部切替スイッチの設定(17, 18ページの注意を参照)
 サンプリング周波数48/96kHzの切り替えができます。
 出荷時は96kHzに設定されています。

保証特性 (EIAJ測定法CPR-2101に準ずる。出力はDC-330のアナログ出力)

| | |
|-------------|--|
| 周波数特性 | : +0, -0.1dB [Fs=48kHz:20~22kHz, Fs=96k:20~44kHz] |
| 最大入力電圧 | : 1.25V(GAINスイッチ +6dB時) 2.5V(GAINスイッチ 0dB時) 5.0V(GAINスイッチ -6dB時) |
| SN比 | : 114dB(Fs=48kHz), 112dB(Fs=96kHz) |
| 全高調波ひずみ率+雑音 | : 0.0009%(Fs=48kHz), 0.002%(Fs=96kHz) |

アナログ・ディスク入力ボード AI-AD1 [48kHz, 20bit] 希望小売価格 100,000円



アナログ・レコードを再生します。高性能ハイゲイン・イコライザーを搭載していますから、いかなるカートリッジにも対応することができます。

MM、MC専用にするには、同じボードを2枚増設します。

挿入前に、内部ディップスイッチによりMM/MCイコライザ・ゲイン切替とサブソニック・フィルターON/OFFの設定をおこないます。

MM:高出力電圧のMM型カートリッジのポジションです。

ゲイン : 30dB(GAINスイッチ0dB時)

入力インピーダンス : 47k

MC:出力電圧が低いMC型カートリッジのポジションです。

ゲイン : 60dB(GAINスイッチ0dB時)

入力インピーダンス : 100

GAIN-ゲイン調整用スイッチ

通常は、0dBポジションでご使用ください。カートリッジの出力に応じて±6dBゲインを調整できます。(ディスプレイのPEAKが点灯する場合には、ゲインを下げてください。)

- *入力された信号は、ボード内のA/Dコンバータによってデジタル信号に変換されます。A/Dコンバータには20bit、64倍オーバーサンプリング、5次方式のチップを使用しておりアナログイコライザーの性能をはるかに越え、余裕を持ったデジタル変換をしています。

保証特性 (性能はEIAJ CPR-2101に準ずる。出力はDC-330アナログ出力)

| スイッチ位置 | 入力感度 (アナログ出力1V時) | 周波数特性 20~20kHz | S/N 定格入力時 | 入力換算雑音 | EIA S/N |
|--------|---------------------|-------------------|--------------|---------|---------|
| MM | 8.0mV | ±0.2dB | 95dB | -137dBV | 88dB |
| MC | 0.25mV | ±0.2dB | 79dB | -151dBV | 85dB |

SUBSONIC FILTER:25Hz -12dB/octave

ライン出力ボード AO-U1 [48kHz, 20bit] 希望小売価格 70,000円

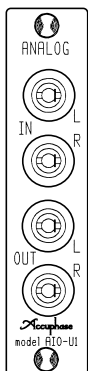


テ - プレコ - ダ - やDAT、MDなどへの、アナログ録音用出力端子です。
 *この信号は、ボリューム、トーン、コンペンセーターなどの影響を受けません。
 *入力セクターによって選択された信号が、ボード内D/Aコンバーターによって、アナログ信号に変換され出力されます。

保証特性(EIAJ測定法CPR-2101に準ずる。入力はDC-330のデジタル入力)

- 周波数特性 : ±0.2dB at 20 ~ 20,000Hz
- 最大出力電圧 : 2.5V
- 出力インピーダンス : 50
- SN比 : 115dB
- ダイナミックレンジ : 98dB
- 全高調波ひずみ率 + 雑音 : 0.007%

ライン入・出力ボード AIO-U1 希望小売価格 60,000円



テ - プレコ - ダ - またはDAT、MDなどのアナログ録音・再生端子です。ピンプラグ付オーディオケーブルで接続します。

接続 “ IN ” 端子 レコーダーの “ LINE OUT ”
 “ OUT ” 端子 レコーダーの “ LINE IN ”

- *入力された信号は、ボード内のA/Dコンバータによってデジタル信号に変換されます。
- *出力は、入力セクターによって選択された信号が、ボード内のD/Aコンバータによってアナログ信号に変換されます。
- *OUT端子の出力信号は、ボリューム、トーン、コンペンセーターなどの影響を受けません。

保証特性

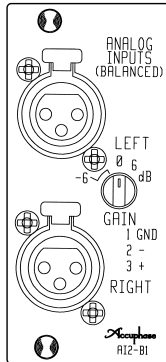
アナログ入力部(EIAJ測定法CPR-2101に準ずる。出力はDC-330のアナログ出力)

- 周波数特性 : +0, -0.2dB at 20 ~ 20,000Hz
- 最大入力電圧 : 0.55V(内部ディップ・スイッチ 0dB時)
 1.1V(内部ディップ・スイッチ -6dB時)
 2.2V(内部ディップ・スイッチ -12dB時)
- SN比 : 100dB
- 全高調波ひずみ率 + 雑音 : 0.0025%

アナログ出力部(EIAJ測定法CPR-2101に準ずる。入力はDC-330のデジタル入力)

- 周波数特性 : +0, -0.5dB at 20 ~ 20,000Hz
- 最大出力電圧 : 2.5V
- 出力インピーダンス : 50
- SN比 : 100dB
- ダイナミックレンジ : 98dB
- 全高調波ひずみ率 + 雑音 : 0.007%

バランス入力ボード AI2-B1 [96kHz, 24bit] 希望小売価格 70,000円



バランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。CDプレーヤー、チューナーなどバランス出力を持つ機器と接続します。

* 入力された信号は、ボード内のA/Dコンバータによって、分解能24bitのデジタル信号に変換されます。

* GAINスイッチは通常0dBで使用しますが、PEAKが点灯する場合には、-6dBにしてゲインを下げます。

* アクフェーズではバランス用XLRコネクター付・ケーブルを別売しています。

内部切替スイッチの設定(17, 18ページの注意を参照)

サンプリング周波数48/96kHzの切り替えができます。

出荷時は96kHzに設定されています。

保証特性(EIAJ測定法CPR-2101に準ずる。出力はDC-330のアナログ出力)

周波数特性 : +0, -0.1dB [$F_s=48\text{kHz}$:20~22kHz, $F_s=96\text{kHz}$:20~44kHz]

最大入力電圧 : 1.25V (GAINスイッチ位置+6dB時)

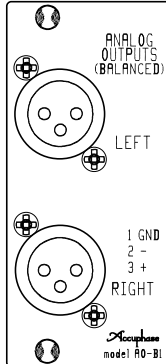
2.5V (GAINスイッチ位置0dB時)

5.0V (GAINスイッチ位置-6dB時)

S/N比 : 114dB ($F_s=48\text{kHz}$), 112dB ($F_s=96\text{kHz}$)

全高調波ひずみ率+雑音 : 0.0009% ($F_s=48\text{kHz}$), 0.002% ($F_s=96\text{kHz}$)

バランス出力ボード AO-B1 [48kHz, 20bit] 希望小売価格 80,000円



バランス入力を持つレコーダへの、アナログ録音用出力端子です。

レコーダーの「LINE IN」と接続してください。

* 入力セクターによって選択された信号が、ボード内のD/Aコンバータによりアナログ信号に変換され出力されます。

* この出力信号は、ボリューム、トーン、コンペンセーターなどの影響を受けません。

保証特性(EIAJ測定法CPR-2101に準ずる。入力DC-330のデジタル入力)

周波数特性 : $\pm 0.2\text{dB}$ at 20~20,000Hz

最大出力電圧 : 2.5V

出力インピーダンス : 50

S/N比 : 115dB

ダイナミックレンジ : 98dB

全高調波ひずみ率+雑音 : 0.007%

オプションの取り付け方法

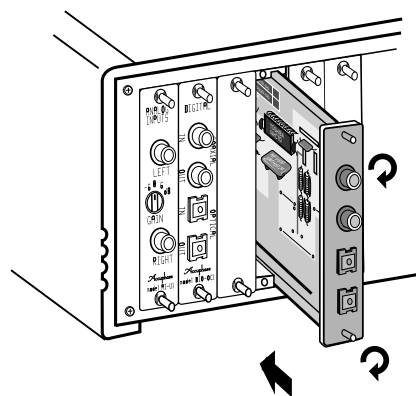
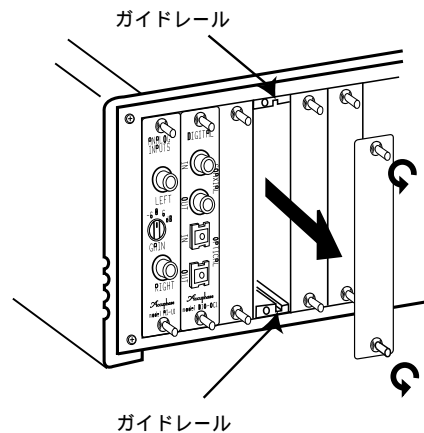
DC-330の電源スイッチをOFFにします。

リアパネルのオプション用スロットのサブパネルをはずします。

2スロット使用するボードの場合は、2枚はずします。

DC-330挿入口の上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入します。コネクタに当たって止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)

上下のネジ2カ所で確実に固定します。



*挿入のイラストは、DIO-OC1を示します。

⚠ 注意

オプションを抜き差しするときは、必ずDC-330の電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま抜き差ししますと、故障の原因となります。

部品面やハンダ面、コネクタの接点部分を手で触らないでください。静電気で回路が故障する原因となります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。

オプションの取り付けネジ(2カ所)は手で完全に締めてください。締めつけが不十分ですと、端子がグラウンドから浮いて接触不良となり故障の原因となります。

8. 保証特性

[保証特性はEIAJ測定法CPR-2101に準ずる]

入力フォーマット: EIAJ CP-1201

量子化数 : 16 ~ 24ビット直線
 サンプル周波数 : 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
 (自動検出) 88.2kHz, 96kHz
 176.4kHz, 192kHz, 2.8224MHz
 [オプション・ボード対応による]

デジタル入力フォーマット・レベル(EIAJ CP-1201)

フォーマット : DIGITAL AUDIO INTERFACE
 OPTICAL : 光入力 -27 ~ -15dBm
 COAXIAL : 0.5Vp-p 75
 [オプション・ボード対応による]

デジタル出力フォーマット・レベル(EIAJ CP-1201)

フォーマット : DIGITAL AUDIO INTERFACE
 OPTICAL : 光出力 -21 ~ -15dBm
 発光波長 660nm
 COAXIAL : 0.5Vp-p 75
 [オプション・ボード対応による]

周波数特性

0.5 ~ 50,000Hz +0, -3dB

D/Aコンバーター

24ビット MDS方式

全高調波ひずみ率

0.0006% (20 ~ 20,000Hz間)

S/N

120dB

ダイナミックレンジ

112dB (24bit入力, LPF : OFF)

チャンネル・セパレーション

108dB (20 ~ 20,000Hz間)

出力電圧・出力インピーダンス

BALANCED : 5V 50 平衡 XLRタイプ
 UNBALANCED : 5V 50 RCAフォノジャック

ボリューム・コントロール(DSP)

Linearモード : - , 0.5 ~ 99.5 (0.5ステップ) Max
 dBモード : - , -94.0dB ~ +12.0dB
 速度感知回転方式

バランス・コントロール(DSP)

左右の差 : - , -4dB ~ 0dB (1dBステップ)

トーン・コントロール(DSP)

ターンオーバー周波数及び可変範囲
 低音(BASS) : 315Hz ±5dB (50Hz) 1dBステップ
 高音(TREBLE) : 3.15kHz ±5dB (20kHz) 1dBステップ

コンペンセーター(DSP)

1 : +3dB (100Hz)
 2 : +6dB (100Hz)
 3 : +6dB (100Hz) , +3dB (20kHz)
 4 : +9dB (100Hz)
 5 : +9dB (100Hz) , +6dB (20kHz)

アッテネーター(DSP)

-20dB

電源・消費電力

AC100V 50 / 60Hz 25W

最大外形寸法・質量

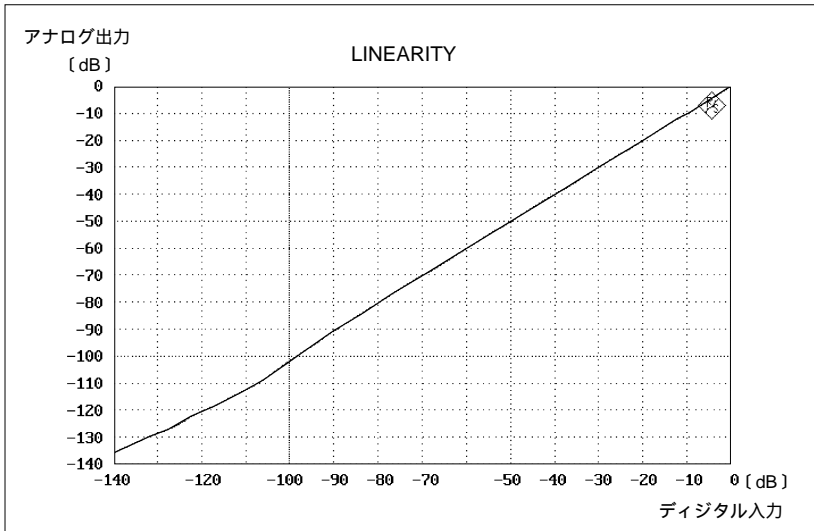
幅475mm × 高さ150mm × 奥行412mm
 20.2kg

付属リモート・コマンダー RC-24

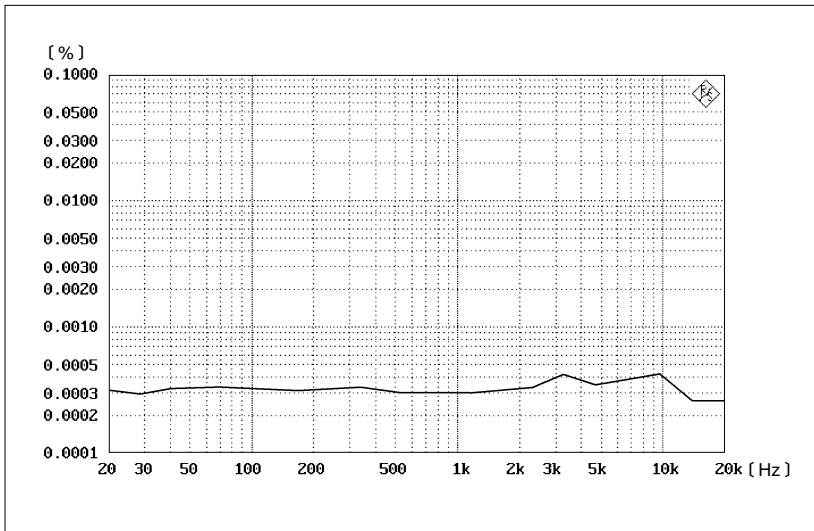
リモコン方式 : 赤外線パルス方式
 電源 : DC3V・乾電池 単4形 2個使用
 最大外形寸法 : 66mm × 175mm × 20mm
 質量 : 220g (電池含む)

本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

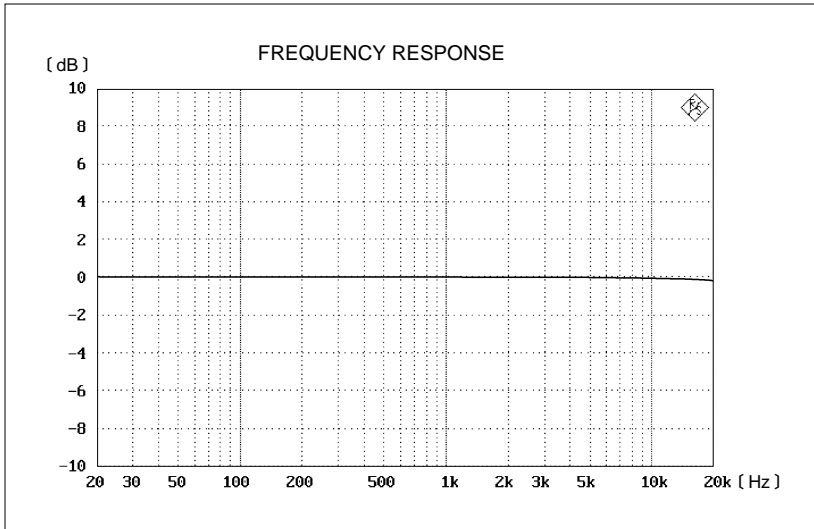
9. 特性グラフ



リニアリティ
(デジタル入力対アナログ出力)

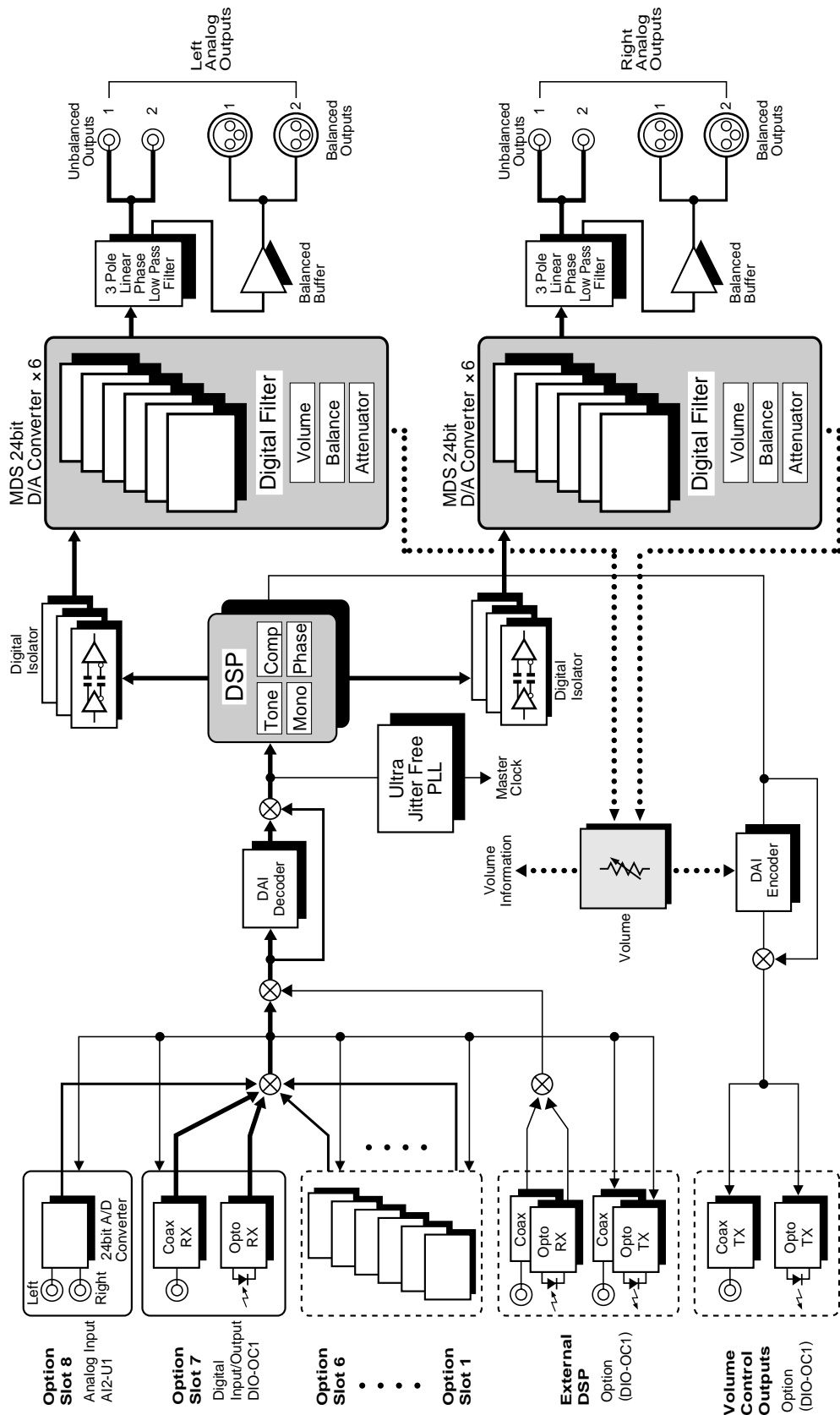


全高調波ひずみ率
(雑音含む)対周波数特性



周波数特性

10. ブロック・ダイアグラム



11. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

⚠ 注意：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切ってください。

電源が入らない(ディスプレイが点灯しない)

電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)

音がでない。またはレベルが低い

ソース側機器やパワーアンプの電源は入っていますか。
入力スイッチや出力ON / OFFボタンを確認します。
接続コードは正しく接続されていますか。
本機のVOLUMEで出力レベルを確認します。
選択した入力のサンプリング周波数をロックインしていますか。

音が途切れたり雑音が出る

接続コードのプラグの汚れ、接触を点検します。
トスリンク光ファイバーはEIAJ規格品ですか。
(規格に適合しないものは正常な動作ができません)

片側のスピーカーから音が出ない

接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。
バランス・コントロールを確認します。
本機とパワーアンプ間の接続コードを左右入れ替えてください。
同じ側から音がでない..... パワーアンプやスピーカー側に原因が考えられます。
左右逆の状態になる..... 本機やソース側機器に原因が考えられます。
アナログの場合、次に本機への入力コードを左右入れ替えてください。
同じ側から音がでない..... 本機に原因が考えられます。
左右逆の状態になる..... 接続コードやソース側機器に原因が考えられます。

リモート・コマンダーで操作できない

電池は入っていますか。
新しい電池に交換してみましょう。
受光部付近に障害物はありませんか。

外部接続機器(デジタル)の出力がない

周波数ロックはされていますか。
入力ソースのサンプリング周波数とオプション・ボードの対応周波数を確認してください。
光ファイバー、同軸などそれぞれ接続したケーブルをお確かめください。

12. アフターサービスについて

保証書

保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
 オプション・ボードやオプション・ユニットにはお客様カードは付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
 補修部品の保有期間は通産省指導により、製造終了後最低8年間となっています。
 使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

その他

改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
 AC100V以外(海外)では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。
Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店にお願いいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
 〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
 TEL 045(901)2771(代表)
 FAX 045(901)8995

修理依頼の場合には

“故障かな?と思われる場合には”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)
 モデル名、シリアル番号 ご住所、氏名、電話番号
 ご購入日、ご購入店 故障状況:できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2 - 14 - 10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)